

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・近隣にディスカウントタイプの競合店が出店した影響により、これまでは、客の2～3割程度がディスカウント店に流れていたが、今月からは、1割弱の影響しか出ておらず、客が安売店に流れる傾向がなくなっている。
		衣料品専門店 （経営者）	単価の動き	・年初は、福袋やお年玉での買物があり非常に良かった。また、暦の関係でバーゲン期間が1日少なかったために、バーゲン期間の売上は減少したものの、全体では、売上は微増している。
		衣料品専門店 （経営者）	販売量の動き	・販売量は、5年ほど前の数字に戻ってきており、上向きになっている。
		乗用車販売店 （従業員）	来客数の動き	・来客数が急に増え、購入する車の価格帯も高くなっている。
		乗用車販売店 （営業担当）	販売量の動き	・初売りの2日間で、151台の受注があり、前年比120%増と大きく上回ることができた。
	変わらない	美容室（経営者）	お客様の様子	・単価の高いメニューを希望する客が増えている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順とともに、郊外大型ショッピングセンターに人が集まっている。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・秋冬物バーゲンにおいて、まとめ買いがほとんどなく、価格について非常にシビアであり、関連商品を勧めても断られるなど、購買行動に変化がない。また、子供服のギフトは、景気の良い時は1万円が多かったが、現在はほとんど5千円である。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・衣料品及び関連商品群が苦戦し、来客数及び売上高共に前年割れとなった。クリアランス及び初売りは例年と変化は見られない。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・冷え込みが厳しいので、一部、冬物の商品が売れたが、毎年やっている福袋については、かなりシビアな品定めをしており、不要な物は買わないという傾向はまだまだ続いている。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・客単価は、前年を2%割り込んでいる。青果葉物（白菜、キャベツ）の相場高があったものの、食品は3%減少し、前月好調だった衣料品も需要を先取りした感があり3%程度前年割れした。また、住居関連商品も5%強の前年割れとなっている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・コンビニエンス業界が成熟期であることに加えて、寒波なども影響し、売上が非常に悪い。既存店の売上は、ほとんどの店で前年を下回っている。
		衣料品専門店 （経営者）	販売量の動き	・バーゲンは、気温の低下により防寒物を中心にニーズは強いが、客の求める商品は不足しており、売上の増加にはつながっていない。また、春物の販売も気温が低すぎて動きが鈍く、全体として売上は前年を若干下回っている。
家電量販店（営業担当）	来客数の動き	・テレビなどのデジタル家電の購入を目的に来店する客が減っており、前年に比べ、来客数が10%ほど減少している。		
乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・今月、新型車の発表があったが、販売量の増加につながらず、販売量は前年と同じである。客が新型車に飛びつくという現象はなくなっている。		
乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・新発売及びモデルチェンジした車両の販売が、予想を少し下回る状況である。		
その他専門店 〔CD〕（店員）	来客数の動き	・寒波の影響で客足がかなり鈍っているが、それを差し引けばそれほど以前と変わらない。		
都市型ホテル （経営者）	単価の動き	・若干、販売量が戻ってきているが、販売単価の下落傾向が続いており、この2、3か月、売上高は変わらない。		

		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・年未年始の旅行が一段落し、旅行需要の閑散期ではあるが、昨年と比較すると温泉地への団体旅行、スキーバスなどの受注が例年より多く、確実に旅行需要は戻ってきている。また、受験生の航空券、ホテルの予約などは例年通り受注があり、4、5月の海外旅行相談の来店も多くなっている。
		観光名所（経営者）	来客数の動き	・寒波の影響により、観光客が減少している。
		設計事務所（職員）	競争相手の様子	・全体の仕事量が増えておらず、むしろ減少傾向は続いている。また、仕事の内容による専門業種の優位性も希薄化するほど、受注競争が一段と厳しくなってきた。
やや悪くなっている		商店街（代表者）	お客様の様子	・年始の福袋などの特化商品の需要はあったが、成人の日以降の平日の落ち込みがひどく、本当に必要な物以外は買わないという状況が続いている。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・最需要期である年未年始における清酒の販売数量の減少に歯止めがかからない。ビールの販売数量も減少し、第3のビールが着実に増えている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・相場が高いのは野菜のみで、安い物はそれぞれ売れるが、全体的に高い物が売れない。また、来客数あまり伸びず、全体としては売上が低調である。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・寒波の影響で、来客数が少し減っており、売上が期待していたほど伸びない。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・来客数は、年未年始はまずまずの動きであったが、1月に入って、人の動きが悪い。四国全体で入込が良くない状況で、正月明けから1月後半にかけては、この10年で最も悪い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・会社関係のタクシーチケットの利用枚数が減っている。また、乗り合わせてチケットを利用する客もなくなった。チケット以外の一般客については、4～5千円の長距離客が少なくなっており、2千円以下の客がメインになっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・寒さがきついで、本来、乗車客は増加すると考えられるが、昼も待ち時間ばかり長くて、客が少ない。今までの売上を維持しようとすると、深夜まで働かなくてはいけない。普通の定時営業では、生活していくだけの売上はあがらない。正月以降、一段と冷え込みが厳しく、飲みに出る客が減っており、週初は飲み屋街に客が入っていない。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・入場者数がかかり減少している。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・具体的な商談数が3か月前に比べるとかなり落ち込んでいる。
	悪くなっている	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・今月の出足はそれほど悪くはなかったが、途中から悪くなり、売上は前年を下回った。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	通信業（営業担当）	それ以外	・今年度内の受注を目指して、各種システムの提案、営業活動を行っているが、窓口担当や担当責任者などの対応が、昨年同時期や夏前に比べて、積極的に話を聞いてくれることが多くなっている。
		公認会計士	取引先の様子	・客の試算表によると、売上が前月、前年比で平均3～7%、改善されている。
変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気全般は上向きであるが、小売店の家庭用品売場にはまだ明るい兆候が見られない。逆にギフト需要は減少しており、新規開拓で現状の受注を確保している。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事の依存率は毎年減少しているが、民需の拡大により、大型クレーンの稼働率は高い。特に近畿圏、瀬戸内沿岸、北九州地区の景気の拡大は、西日本全域の好況のけん引役となっている。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・前月同様、排ガス規制の買い替え需要が東海、関西などで良好である。また、鉄鋼関連の受注も堅調である。	

	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・例年になく活発な動きのあった昨年末から一転し、反落感がある。また、月末の物量で帳じりを合わせる動きも見受けられる。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・県外企業と取引のある一部製造業を除き、全体的に低調に推移している。販売、売上高、売上総利益率とも低迷している。	
やや悪くなっている	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・既存品の商品の回転が悪くなっている。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・官庁などからの仕事が減少するとともに、見積依頼の件数も少なくなっており、受注量が減少している。	
	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・個人からの耐震調査依頼が増えているが、個人住宅は当社の得意分野でなく、修繕・補修工事があっても、収益面ではあまり寄与していない。	
	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・資材関係の価格は落ち着いたものの、新規受注の動きが良くない。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・求職者の就職形態に関して、派遣よりも、正社員、契約社員といった直接採用の傾向が強くなっている。この傾向は、昨年10月以降うかがえたが、1月に入って特に活発になっている。また、企業が積極的に採用活動を行っており、採用数も増えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は、前年同月比で9.8%増加し、前月比でも2.2%増加となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は建設業、運輸業、不動産業等で減少したものの、製造業、情報通信業、医療福祉等で増加し、パート求人も倍近く増加したことから、前年同月と比べ、5か月連続で増加した。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・新卒マーケットは昨年比で約140%と就職サイトへの参画を中心に受注が伸びている。しかしながら、中央大手への人材流出やマスメディアの好景気だというフレーズに学生は踊らされているので、1月現在での学生の県内企業へのエントリー数は減少している。
求人情報誌製作会社（従業員）		求職者数の動き	・求人は増えているが、求職者数は減っており、求人広告を出しても人が集まらないため、広告掲載の機会が減っている。	
新聞社〔求人広告〕（担当者）		周辺企業の様子	・企業の広告予算への投下意欲が少なく、スポット的な広告出稿が非常に少ない。	
民間職業紹介機関（所長）		求職者数の動き	・求職者数は前年とほぼ同数で推移している。最近の特徴としては、在職中でありながら、仕事への不満、人間関係悪化などが原因で、求職登録する20代の人が増えている。	
やや悪くなっている	-	-	-	
悪くなっている	-	-	-	